

## ■ 施工手順

## 1. 下地状態の確認

- ① 下地表面が弱い場合や粉っぽい場合は「フロアシーアップ」を塗布・乾燥させる。  
下地内部まで弱い場合は、床材施工を避けるか、下地を強固に作りかえる。

## 2. 清掃

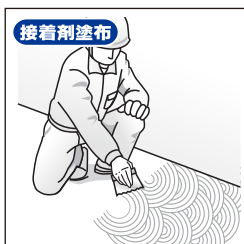
- ① モルタル、コンクリートの突起物をスクレイパー等で削る。  
② 湿潤ノコ屑を撒き散らし、箒で掃き取ってモルタルかすなどを取り除く。

## 3. パテ

- ① 「アースシール速硬」等で下地の亀裂、凹部などを埋め、下地を平滑にし、完全に硬化・乾燥させる。  
② 下地にコテムラなど全体的に不陸がある場合は、「アースコート60」で下地全面を平滑にし、完全に硬化・乾燥させる。

## 4. 床材の張り付け

- ① 合成ゴム系ラテックス形接着剤「ブラゾールNP-2000」または「ブラゾールNP-2300」を下地に塗布し、所定のオープンタイムをとる。  
② 床材を張り付け、圧着可能時間内にローラー等を掛け、床材と接着剤を十分に馴染ませる。  
③ 床材施工後、「ツヤ消しシームシーラー」を用いて、継ぎ目部分を完全に接着させる。  
④ 床材張り付け後、24時間程度は極力人通りを避けると共に、1週間程度は直射日光や急激な空調の使用などを避け、換気をよくして養生する。



## ※ 備考

- (1) 冬季や低温時は、ジェットヒーター等で采暖を取り、10℃以上にして施工を行ってください。采暖の効果がない場合などは、乾燥性のよいビニル共重合樹脂系溶剤形接着剤「ブラゾールNP-3000」が適しています。ただし、5℃以下での施工は避けてください。  
(2) 床材及び接着剤は、極力前日までに搬入し、施工環境に慣らしておいてください。  
(3) 施工に先立ち、巻癖、伸縮を取り除くため、仮敷きを行ってください。  
(4) 耐湿工法の場合は、ウレタン系接着剤「ブラゾールUF」「ブラゾールUF-1」をご使用ください。  
(5) 施工後、急激な温度変化が生じると、床材が伸縮し、目透きや突き上がり、反りが発生し易いのでご注意ください。  
(6) 床用ワックスの使用は、必ず接着剤が乾燥硬化してから行ってください。  
(7) 床材のすき間補修には床用コーキング剤「アースコーク」をご使用ください。

## ■ 使用商品 (施工㎡数)

## ● フロアシーアップ



| 商品番号    | 荷姿      | 施工㎡数の目安           |
|---------|---------|-------------------|
| 291-112 | 4kg(x4) | 80㎡/4kg<br>(2倍希釈) |

高品質アルデヒド除去剤等級  
F☆☆☆☆

## ● アースシール速硬



| 商品番号    | 荷姿      | 施工㎡数の目安          |
|---------|---------|------------------|
| 293-101 | 5kg(x4) | 5㎡/5kg<br>(1mm厚) |

## ● アースコート60



| 商品番号    | 荷姿        | 施工㎡数の目安            |
|---------|-----------|--------------------|
| 293-801 | 4.5kg(x4) | 5㎡/4.5kg<br>(1mm厚) |

## ● ブラゾールNP-2000エコロン



| 商品番号    | 荷姿   | 施工㎡数の目安  |
|---------|------|----------|
| 281-131 | 18kg | 70㎡/18kg |

JIS-F☆☆☆☆

## ● ツヤ消しシームシーラー



| 商品番号    | 荷姿       | 施工㎡数の目安      |
|---------|----------|--------------|
| 295-112 | 200g液セット | 80~100㎡/200g |

## ■ 注意事項

- ① 乾燥モルタル以外の下地へ施工の場合は、別途各下地別施工要項をご参照ください。  
② 「ブラゾールNP-3000」、「ブラゾールUF」「ブラゾールUF-1」「ツヤ消しシームシーラー」を使用する際は、火気・換気に十分注意してください。  
③ 床材の種類によっては、接着しにくいものもありますので、事前に試験施工して確認された上で本施工を行ってください。  
④ 床用パテ「アースシールシリーズ」は、下地を平滑にすることを目的としており、下地の動きを固定するものではありません。従って極端に動きが生じた場合クラック等が発生する事がありますので、ご注意ください。  
⑤ 使用に際しては、各製品の使用方法、注意事項などを必ずお読みいただき、十分にご理解頂いた上でご使用ください。尚、製品の取り扱いに関する詳細が必要な場合は、安全データシート(SDS)をご参照ください。